

# 2018年度アクセス交通等実態調査の結果 について（概要）

2019年3月  
成田国際空港株式会社



**Narita Airport**

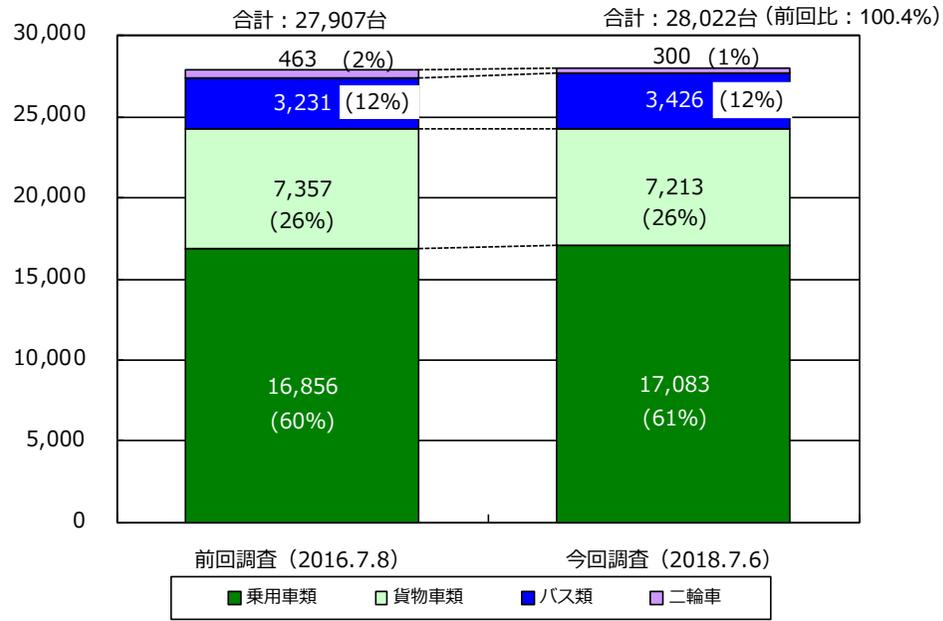
Connecting Japan to the World

# 入港車両カウント調査

- 成田空港への入港車両台数は、全体で28,022台となっており、前回比で100.4%となっています。このうち乗用車類が最も多く61%、貨物車類が26%、バス類が12%となっています。
- 前回調査と比較すると、車種別の比率に大きな変化はありませんでした。

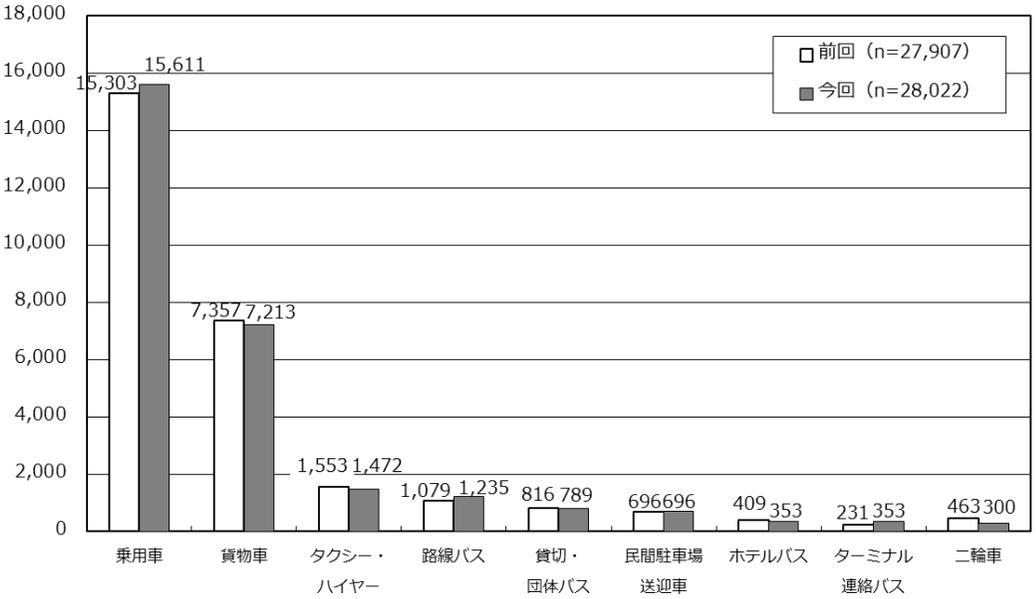
## ○ 全体の入港車両台数

入港車両台数 (台/日)



## ○ 車種別入港車両台数

入港車両台数 (台/日)



# 出発旅客アンケート調査（全出発旅客）

- 鉄道類を利用するお客様の割合が2%増加しています。
- バスは全体として3%減少しているものの、LCCバスを利用するお客様の割合が2%増加しています。
- 自家用車を利用するお客様の割合が2%減少しています。

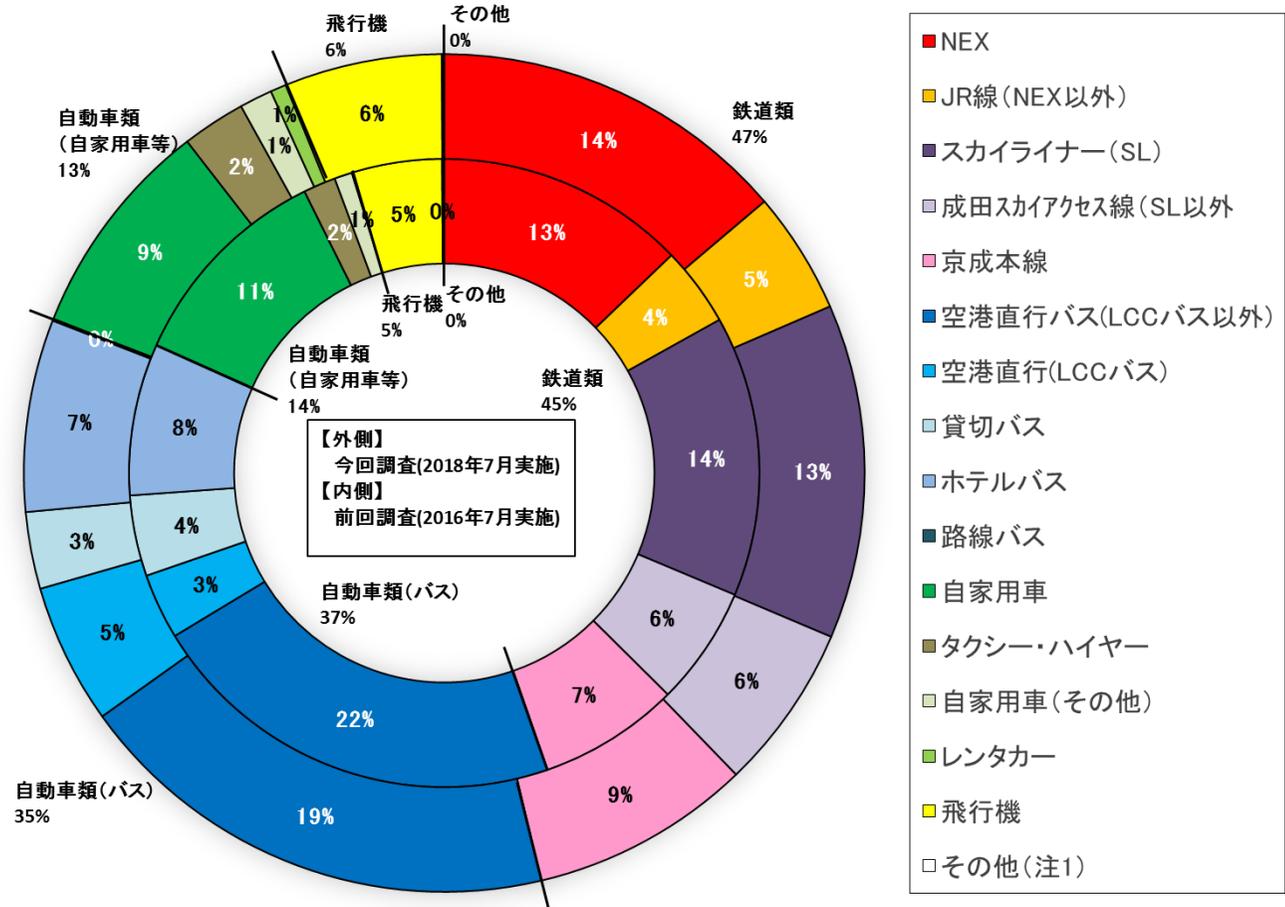


図-1 全出発旅客のアクセス交通機関構成比

注1) その他：前回調査では、路線バス、レンタカー、その他を含む分担率を示します。  
 注2) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

# 出発旅客アンケート調査（日本人出発旅客）

- 鉄道類の利用割合は路線での増減はあるものの、全体としては変化していません。
- LCCバスを利用するお客様の割合が3%増加しています。
- 飛行機を利用するお客様の割合が3%増加しています。これは国内線と国際線との乗継での利用増加が図られた結果と考察します。

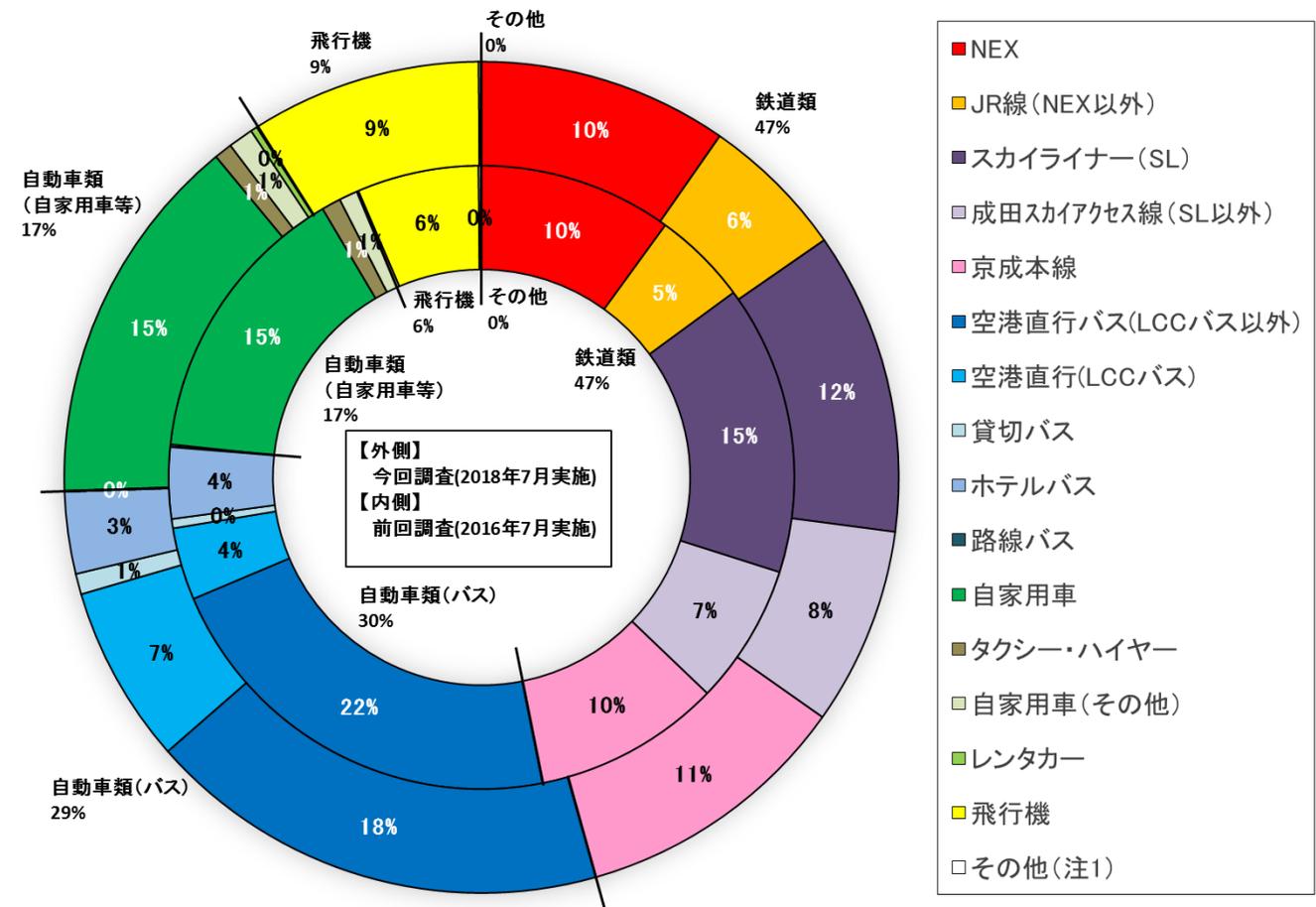


図-2 日本人出発旅客のアクセス交通機関構成比

注1) その他：前回調査では、路線バス、レンタカー、その他を含む分担率を示します。  
 注2) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

# 出発旅客アンケート調査（外国人出発旅客）

- 鉄道類を利用するお客様の割合が4%増加しています。
- 自家用車を利用するお客様の割合が4%減少しています。

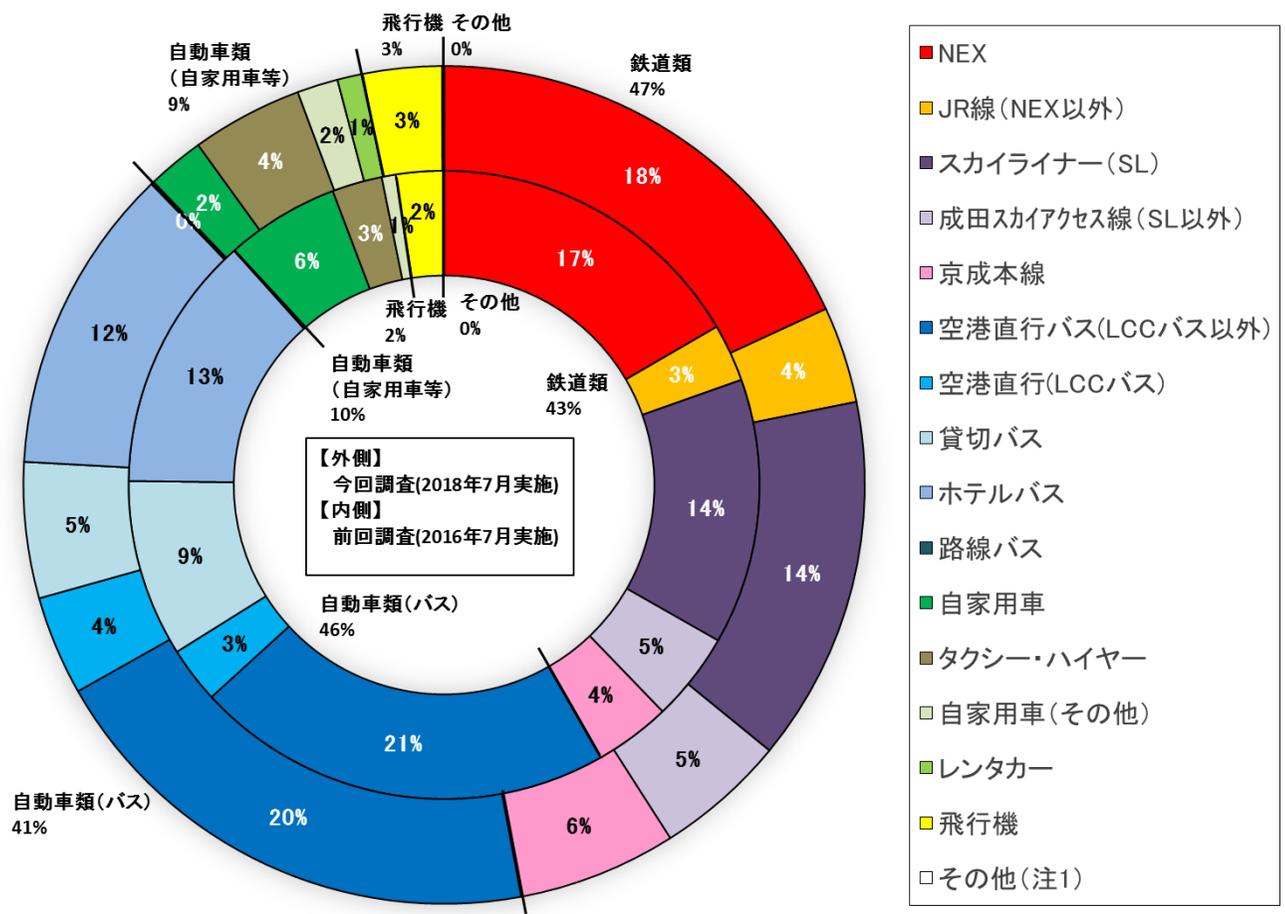
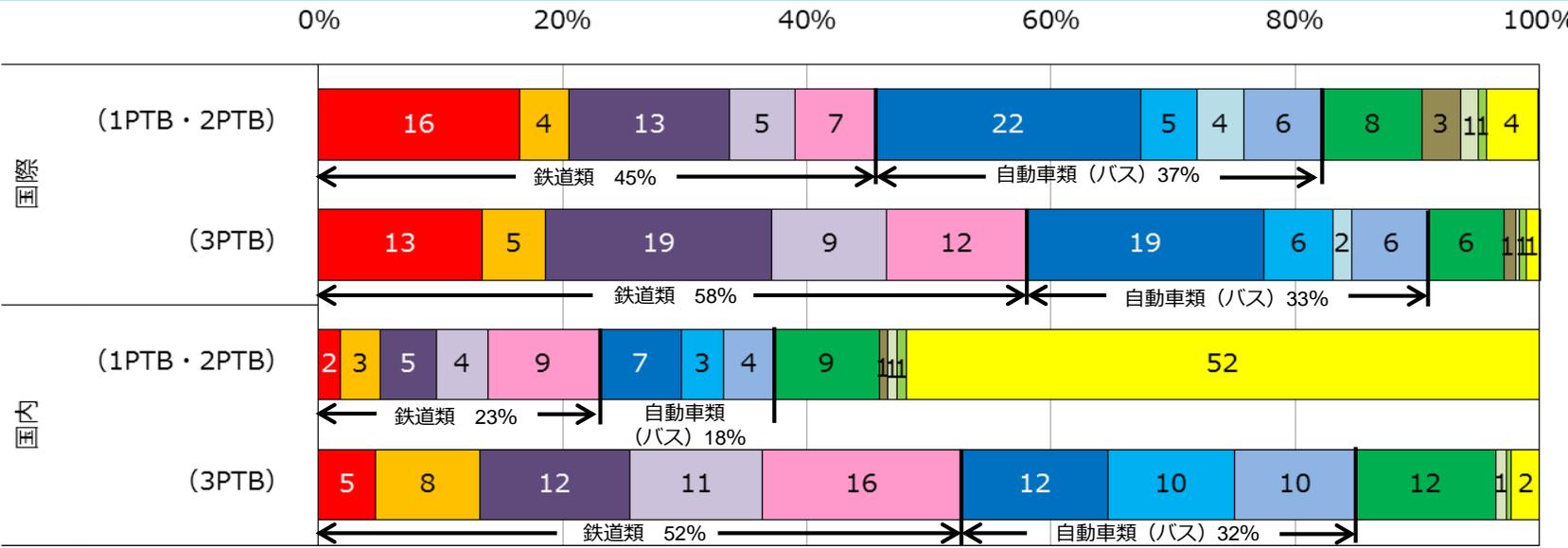


図-3 外国人出発旅客のアクセス交通機関構成比

注1) その他：前回調査では、路線バス、レンタカー、その他を含む分担率を示します。  
 注2) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

# 出発旅客アンケート調査（国際・国内線、ターミナル別出発旅客）

- 今回の調査では初めて1PTB・2PTBと3PTBの比較及び、国際線と国内線との比較を実施しました。
- 国際線を利用するお客様では、1PTB・2PTBを利用するお客様に比べて、3PTBを利用するお客様の方が、鉄道類を利用する傾向にあり、鉄道類の利用割合が50%を超えています。
- 1PTB・2PTBを利用する国内線のお客様では、飛行機（国際線からの乗継ぎ）を利用する傾向が高く、約半数を占めています。
- 国内線を利用するお客様に比べて、国際線を利用するお客様の方が、有料特急や空港直行バスを利用する割合が高くなっています。



- NEX
- JR線 (NEX以外)
- スカイライナー (SL)
- 成田スカイアクセス線 (SL以外)
- 京成本線
- 空港直行バス(LCCバス以外)
- 空港直行(LCCバス)
- 貸切バス
- ホテルバス
- 路線バス
- 自家用車
- タクシー・ハイヤー
- 自家用車 (その他)
- レンタカー
- 飛行機
- その他

図-4 出発旅客のアクセス交通機関（国際・国内、ターミナル別）

■ 本調査の報告書を下記ホームページにて公開しておりますので、その他の調査項目につきましては、こちらをご覧ください。  
 成田国際空港アクセス交通実態調査報告書ホームページ : <https://www.naa.jp/jp/airport/chousa.html>